



こだま・はるみ 国際基督教大学院修士課程修了。国際協力NGOジョイセブにて東京本部やカリブ海のバハマに勤務した後、2001年から国連人口基金のニューヨーク本部にて対外パートナーシップに携わった。08年にアジア開発銀行(ADB)に入行。本部広報局や首席企画・政策専門官などを経て、19年5月から現職。鹿児島県出身。

現場の風

— ADB駐日代表に女性が就任するのは初めてだ

「ADBはアジア太平洋地域における開発支援を目的とした国際金融機関だが、近年はインフラ投資支援などの主要事業に加え、女性活躍推進を重要課題にしている。STEM(科学、技術、工学および数学)の分野で活躍する女性がまだまだ少ないことも問題と認識しており、女性活躍推進を周囲に意識づける意味でもバランスの取れた自分なりの視点を入れられると思っている」

— 駐日代表として力を入れたいことは

「ADBは50年以上、日本が主導的な役割を担ってきた日本人が誇れる国際金融機関だ。だが、知名度はまだ低い。まずは日本の政府機関や非政府組織(NGO)、民間企業などにADBのことを深く知ってもらい、協力関係をさらに強化することが求められている。ADBの活動を通して、アジアが抱えている経済的な課題を広く周知していきたいと思っている」

— 重点的に取り組む分野は

「途上国支援、貧困や格差の是正、人材開発などの諸課題に対し、今後はジェンダーの平等の推進や気候変動緩和に関する視点を盛り込んでいく。2030年までにADBが合意した業務案件数の75%を女性や環境に配慮したものにしていく。また、日進月歩で発展するデジタル技術を各事業分野で取り入れていきたいと思っている。行政手続きや保健医療の高度化、インターネットバンキングなどの導入を進めるためにも注力したい分野だ」

— 日本の技術を活用できる機会も広がっている

「ADBは環境や災害対応に配慮した質の高いインフラ整備を進めている。一昨年には日本がドナー(資金の提供者)となり、質の高いインフラ整備を支援する『高度技術支援基金』を創設した。この基金を通じて、日本の技術売り込むチャンスを広げられると思っている」

アジア開発銀行・駐日代表事務所代表

児玉 治美さん(50)

女性活躍や気候変動緩和にも重点